

平成29事業年度

公立大学法人尾道市立大学
業務の実績に関する評価結果

平成30年7月

尾道市公立大学法人評価委員会

尾道市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(50音順、敬称略)

| 分野 | 氏名 | 現職 | 備考 |
|------|--------|------------------------|----|
| 財務 | 瀬戸 務 | 中国税理士会尾道支部幹事 | |
| 大学運営 | 高垣 孝久 | 尾道商工会議所常議員 商業委員会委員長 | |
| 教育研究 | ◎堂本 時夫 | 県立広島大学名誉教授 | |
| 地域貢献 | 豊田 雅子 | NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事 | |
| 教育研究 | 萩原 泰治 | 神戸大学大学院経済学研究科教授 | |

◎委員長

1 年度評価の方法について

評価の基本方法

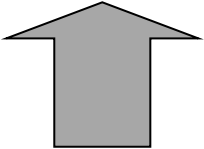
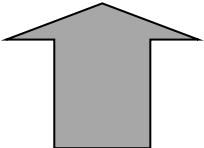
- 中期目標達成に向けた事業の進捗状況を確認する観点から評価する。
- 先進的・特徴的な取組や運営の改善を積極的に評価する。
- 法人化を契機とする大学改革の取組を支援する観点から評価する。
- 取組状況等を市民に分かりやすく示す観点から評価する。

評価の方法

- 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行う。
- 「全体評価」は、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について、次の事項を総合的に評価する。

- (1) 理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組
- (2) 社会に開かれた大学運営を目指した取組
- (3) 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組
- (4) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組
- (5) 自己点検・評価及び情報公開に関する取組
- (6) その他必要と認められる事項

- 「項目別評価」は「小項目評価」及び「大項目評価」により行う。
- 「小項目評価」は法人の自己評価結果の検証・評価を行う（4段階）。
- 「大項目評価」は、「小項目評価」の結果を踏まえ、中期計画の大項目ごとに総括評価を行う（5段階）。

| | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>《全体評価》</p>  <p>《大項目評価》</p>  <p>《小項目評価》</p> | <p>【小項目評価】</p> <p>評点</p> <p>4 年度計画を上回って実施している。</p> <p>3 年度計画を順調に実施している。 (達成度が概ね9割以上)</p> <p>2 年度計画を十分に実施していない。 (達成度が概ね6割以上9割未満)</p> <p>1 年度計画を大幅に下回っている。 (達成度が6割未満)</p> | <p>【大項目評価】</p> <p>評点</p> <p>S 特筆すべき進行状況にある。 (評価委員会が特に認める場合)</p> <p>A 年度計画を順調に実施している。 (全て3以上)</p> <p>B 年度計画を概ね順調に実施している。 (3以上の割合が9割以上)</p> <p>C 年度計画がやや遅れている。 (3以上の割合が9割未満)</p> <p>D 重大な改善事項がある。 (評価委員会が特に認める場合)</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

○ 教育研究の特性に配慮すべき項目については、法人から提出された業務実績報告に基づき、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行った。

今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、「地域に根ざした、市民から信頼される大学」の実現に向けて、教育、研究及び地域貢献が一層充実することを期待する。

2 全体評価

尾道市立大学は、経済情報学部と芸術文化学部の2学部を置く公立大学法人として平成24年4月に設立された。

設立団体である尾道市が定めた中期目標を達成するため、「知と美」を探究する場、「知と美」を創造しその成果を社会に発信する場、そして学問と人間的触れ合いを通じて有為な人材を育成する場となることによって、学術・文化の向上と社会の発展に貢献することを使命としている。

平成29年度は法人設立後6年度となる第1期中期計画の最終年度であり、教育、研究、地域貢献、国際交流、自己点検・評価の各分野における重点取組項目に従って、理事長を中心に自律的で効果的な事業実施が進められた。

平成29事業年度の業務の実績については、6つの大項目のうち、4項目がA評価（年度計画を順調に実施している。）、1項目がB評価（年度計画を概ね順調に実施している。）、1項目がC評価（年度計画がやや遅れている。）となっているが、特徴のある取組として、次の事項が挙げられる。

- ① 国際的に通用する人材の育成を図るため、新入学生のTOEIC IPテストの成績を習熟度別クラス編成に反映し、ネイティブ教員による入学時からの英語教育の充実を図った。
- ② 経済情報学部の選抜学生に対して特別演習ⅠⅡⅢⅣを開講し、また、美術学科特別講演会「画家のブックデザイン：装幀と挿画の醍醐味」を開催し、専門的知識と能力の育成を図った。
- ③ 大学院教育では、会計分野と租税論分野の担当者を採用し、高度な専門的知識を備えた職業人を養成する環境を整備した。日本文学研究科では、中国の提携大学から交換留学生1名を受け入れた。
- ④ ハワイ大学マウイカレッジとの交流協定を締結した。今年度から派遣したベトナム貿易大学とアメリカ合衆国ハワイ大学マウイカレッジも含め、夏季語学研修10名、春季語学研修18名の参加があり、合計で28名となり、昨年度の26名から増加した。また、提携校からの留学生として科目等履修生7名、交換留学期間延長1名、学部研究生として交換留学経験者1名をそれぞれ受け入れた。

第1期中期目標の達成状況に基づいた次期中期計画を策定し、個別の重点課題を明確にしながら、平成29年度年度計画の着実な実施に取り組んでおり、年度計画を概ね順調に達成するとともに、中期計画全体の推進が図られたものと評価できる。

平成30事業年度は、第1期中期目標・計画の取組から、明らかになった重点的項目及び課題を踏まえて、第2期中期目標の着実な実施に向け、年度計画及び中期計画を着実に実施されることを期待する。

【大項目評価結果】

| | S 特筆すべき進行状況 | A 計画どおり | B 概ね計画どおり | C やや遅れている | D 重大な改善事項あり | 小項目評価結果 *評価1の項目なし | | |
|-----------------------------|-----------------------|-------------------|---------------------|---------------------|-----------------------|-----------------------------|--------|-------|
| 第4 教育研究等の質の向上 | S | A | B | C | D | 4 (8) | 3 (38) | 2 (1) |
| 第5 地域貢献及び国際交流 | S | A | B | C | D | 4 (1) | 3 (6) | 2 (0) |
| 第6 業務運営の改善及び効率化 | S | A | B | C | D | 4 (1) | 3 (0) | 2 (0) |
| 第7 財務内容の改善 | S | A | B | C | D | 4 (1) | 3 (0) | 2 (1) |
| 第8 自己点検・評価及び情報の提供 | S | A | B | C | D | 4 (0) | 3 (3) | 2 (0) |
| 第9 その他業務に関すること | S | A | B | C | D | 4 (0) | 3 (4) | 2 (0) |

中期目標・中期計画の主要な進捗状況等については、次のとおりである。

(1) 理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組

次の事項については、理事長のリーダーシップによる取組として評価できる。

- ア 教員の研究活動を支援する取組として、教員1名がサバティカル制度を利用した。
- イ COC+の一環で、地域研究活動への取組がスタートした。
- ウ 科研申請と研究費補助を連動させた制度により、33件の申請実績があった。

(2) 社会に開かれた大学運営を目指した取組

次の事項については、社会に開かれた大学運営を目指した、市民や社会に対する説明責任を果たす取組として評価できる。

- ア 「地域活性化企画」発表会、受託研究や市内のイベント参画など学生が主体的に企画した地域貢献活動を実施した。
- イ 教育機関の要望に応じて地域の小学生に向けて児童向けワークショップ「子ども学芸員の旅」を行った。
- ウ 受託研究を3件完了しており、4件が継続実施中である。

(3) 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組

次の事項については、大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組として評価できる。

- ア 地域・キャリア系科目の地域関連科目に「地域の伝統文化（囲碁）」を新たに開講した。
- イ 「教職履修カルテ」の活用を徹底するよう促し、更なる学生の資質・能力の向上に努めた。
- ウ 地域の教育機関との連携を図り、教職志望学生が地域の教育にかかわる場を形成するよう取り組んだ。
- エ 今年度から派遣するベトナム貿易大学とアメリカ合衆国ハワイ大学マウイカレッジの説明を行った結果、28名の参加があった。
- オ 留学生報告&交流会を実施し、留学生が交換留学についてプレゼンテーションする機会を設け、本学学生・教職員のみならず、地域の人々にも交換留学の充実を知っていただくことで関心を高めた。

カ 「地域活性化企画」発表会、受託研究や市内のイベント参画など学生が主体的に企画した地域貢献活動を実施した。

(4) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組

次の事項については、業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況に関する取組として評価できる。

ア 偏りのない業績評価を行うため、平成 29 年度の教育研究活動報告書から、教育、研究、その他の校務、地域貢献の観点からのそれぞれの自己評価点（4 段階）の選択欄を追加した。

(5) 自己点検・評価及び情報公開に関する取組

次の事項については、自己点検・評価に関して必要な取組を行っていると思われる。

ア 成績評価の基準を策定し、担当教員と履修学生への明示を行っている周辺大学の事例を検討し、授業形態・履修者数、授業内容の専門性に合わせた評価基準の本学における課題を整理した。

イ 成績評価の基準の公開と最高評価の分布量のコントロールが本学実施可能な項目として分析され、具体的な実施の準備に入った。特に美術学科に関しては、日本文学科・経済情報学科との領域特性を配慮した。

(6) その他必要と思われる事項

次の事項については、必要な取組として評価できる。

ア 老朽化した体育館の改修及び利便性の向上を図るため大講義室の改修を行った。

イ ハラスメント防止のための研修会を開催した。

3 項目評価

第4 教育研究等の質の向上

評価結果 B 年度計画を概ね順調に実施している。

評価対象項目の合計47項目のうち、3又は4の割合が97.9%であるが、1項目に2の評価があることから大項目評価としてはB評価と認められる。

〔小項目評価結果〕

| | 評価対象項目数 | 1 大幅に下回っている | 2 十分に実施していない | 3 順調に実施している | 4 上回って実施している |
|---------------|---------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 教育の質の向上に関する目標 | 30 | 0 | 1 | 25 | 4 |
| 研究の質の向上に関する目標 | 7 | 0 | 0 | 5 | 2 |
| 学生の支援に関する目標 | 10 | 0 | 0 | 8 | 2 |
| 合計 | 47 | 0 | 1 | 38 | 8 |

【特記事項】

1 教育の質の向上に関する目標

(1) 質の高い教育課程の編成

ア 地域・キャリア系科目の地域関連科目に「地域の伝統文化（囲碁）」を新たに開講しており、尾道市の市技である囲碁の科目が開講されたことは、地域の魅力を高めるものであり、評価できる。

- イ 意欲の高い学生に向けた特別演習を開講し、非常に優秀で自発的に勉学に取り組む学生の姿が見られるようになっており、評価できる。
- (2) 幅広い視野と豊かな人間性をもち、国際的に通用する人材の育成
- ア 協定、派遣の実績に加え、トビタテ個別相談会等情報提供に努めている点が評価できる。
- イ 経済情報学部において、オムニバス形式で英語による講義を実施する項目が検討にとどまったが、実施に向けた努力を継続していただきたい。
- ウ 日本文学科においては、英語学習のモチベーションと英語力を向上させる契機として「日本文学のための英語」の開講、外国人留学生と日本人学生との交流を図り、英語学習のモチベーションを高める取組として評価できる。
- (3) 専門的知識と能力を身につけ、社会に貢献できる人材の育成
- ア 習熟度クラス編成、ネイティブ教員による英語教育など、第1期で目指した項目が実現できており、評価できる。
- (4) 学習効果向上のための環境整備
- ア 学生が情報機器を最大限活用できるネットワーク環境が整備できたことは、評価できる。
- (5) 教育力の向上
特記事項なし
- (6) 学生の受入れ
- ア キャンパスツアーとオープンキャンパスの2つのイベントの差別化により参加者が増えたことは、評価できる。
- (7) 大学院教育
- ア 高度な専門的知識を備えた職業人の養成の環境が維持できたことは、評価できる。

2 研究の質の向上に関する目標

- (1) 研究の活性化
- ア 年報やホームページで研究成果を公表しており、それに基づき研究評価を可能にし、実施している。
- イ 附属資料では、共同研究の実績が示されていない。広範な教員の共同研究を進めて欲しい。
- (2) 研究の支援体制の整備

ア サバティカル制度を利用した教員の活躍を期待する。

(3) 研究成果の評価

特記事項なし

3 学生への支援に関する目標

(1) 学習の支援

ア 積極的に工夫しながら学生支援を行っていることを評価する。

イ 大学の取組が学生に伝わる工夫が求められる。

(2) 学生生活の支援

ア 可能であれば、支援が必要な学生を早期に見出して、適切な支援体制を組むことを業務とする専門部署を設置し、教員個別の対応では限界を感じることをないように望む。

イ 学生の心身の健康管理に多様な取組をしていることを評価する。

(3) キャリア形成の支援

ア 資格取得支援の取組は、評価できる。

イ 取組の結果が学生の学習実績とどう結びついたかについての分析が望まれる。

ウ 学部・学科の特性を考えたキャリア教育が進められていることを評価する。

第5 地域貢献及び国際交流に関する目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計7項目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

| | 評価対象項目数 | 1 大幅に下回っている | 2 十分に実施していない | 3 順調に実施している | 4 上回って実施している |
|------------|---------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 地域貢献に関する目標 | 3 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| 国際交流に関する目標 | 4 | 0 | 0 | 3 | 1 |
| 合計 | 7 | 0 | 0 | 6 | 1 |

【特記事項】

1 地域貢献に関する目標

(1) 地域社会との連携・協働

ア 学生が主体的に企画した地域貢献活動の実施や、教育機関の要望に応じて地域の小学生に向けたワークショップなどの取組が図られており、評価できる。

(2) 地域での人材育成と学習機会の提供

ア 地域活性化企画発表会は、これまでも高い評価を受けているが、経済情報学部における更なる地域貢献に期待する。

2 国際交流に関する目標

(1) 国際交流の促進

ア ハワイ大学マウイカレッジとの交流協定を締結、春季海外短期研修プログラムで第1期生7名を派遣しており、今後の拡大に期待ができる。

(2) 体制の整備等

特記事項なし

第6 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の1項目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

| | 評価対象項目数 | 1 大幅に下回っている | 2 十分に実施していない | 3 順調に実施している | 4 上回って実施している |
|--------------------|---------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 業務運営の改善及び効率化に関する目標 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 合計 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |

【特記事項】

なし

第7 財務内容の改善に関する目標

評価結果 C 年度計画がやや遅れている。

評価対象項目の合計2項目のうち、3又は4の割合が50%であることから大項目評価としてはC評価と認められる。

[小項目評価結果]

| | 評価対象項目数 | 1 大幅に下回っている | 2 十分に実施していない | 3 順調に実施している | 4 上回って実施している |
|---------------|---------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 財務内容の改善に関する目標 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 |

【特記事項】

1 財務内容の改善に関する目標

(1) 外部資金の獲得

ア 地元企業からの受託研究の件数は前年度6件から2件に減少し、大学教育改革支援プログラムの申請もないので、一層の外部資金の増額に努めて欲しい。

イ 科学研究費補助金の申請件数は前年度29件から33件に、採択数は前年度16件から22件に増加したとともに、採択率がアップしたことは評価できる。

第8 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計3項目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

【小項目評価結果】

| | 評価対象項目数 | 1 大幅に下回っている | 2 十分に実施していない | 3 順調に実施している | 4 上回って実施している |
|----------------------|---------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標 | 3 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| 合計 | 3 | 0 | 0 | 3 | 0 |

【特記事項】

1 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(2) 情報公開の推進

ア ホームページについて、スマートフォン用サイトの構築と外国語対応が早期に対応することが望まれる。

第9 その他業務運営に関する重要目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計4項目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

【小項目評価結果】

| | 評価対象項目数 | 1 大幅に下回っている | 2 十分に実施していない | 3 順調に実施している | 4 上回って実施している |
|-----------------|---------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|
| その他業務運営に関する重要目標 | 4 | 0 | 0 | 4 | 0 |
| 合計 | 4 | 0 | 0 | 4 | 0 |

【特記事項】

1 その他業務運営に関する重要目標

(2) 安全管理体制の整備

ア 今後も長期的な視野に基づいたキャンパス整備計画により、安全で利用しやすい環境づくりに努められたい。